

持続可能な観光立国への変革：静岡県における観光経営の4つの提言

東北ブロックの中期方針案に基づき、「経営変革としてのDX」と「自主財源の確保」を軸に、データに基づくEBPMと地域経済への循環最大化を目指す。

財源と経営の抜本的強化

東北ブロックの導入事例

宮城県
約12億円

仙台市
約10億円

盛岡市
未定(200円/泊)

二次交通対策、
観光市場の
顧客強化

夜間イベント
開催、
受入場券整備

観光DX推進、
持続可能な
地産づくり

宿泊税による持続可能な観光財源の創出

宮城県等の事例では年10～12億円の財源を見込み、二次交通や欧米誘客に充当。

経営視幹レベルでのDX・AI実装

単なるツール利用を脱し、行動データに基づいたEBPMと生成AIによる自動最適化を推進。

定型業務

自治体の雑務、自動の業務を継続。

DMO・自治体の「理想の時間配分」への転換

年間・日次で「データ分析」と「戦略策定」に時間を集中。

3指標（認知・来訪・推奨）の可視化

プロモーションが認知度や推奨量にどう貢献したかを定量化し、成果を可視化。

戦略的な組織運営と成果の可視化

